



レン・ソティアラさん

PROFILE

所属：エントリー・バイトン社
活動国：カンボジア
共に活動する日本企業：リネットジャパングループ

農機具レンタルで 有機野菜の栽培を可能に



20年以上にわたり内戦が続いたカンボジアでは、農地は荒れ、農業技術も失われてしまいました。内戦終結後、政府は稲作を中心に復興に力を入れてきましたが、野菜の生産は後回しに。その結果、国内で生産できる野菜はわずか1日6トン。なんと1日600トンを入力しています。

そこで私が目指しているのが、高品質の野菜の種と有機野菜の普及。有機栽培は付加価値があるため高く売れるので、貧しい農家の生計向上につながると考えたからで



リネットジャパングループがレンタルしたトラクターで農地を耕し、野菜を栽培

す。野菜の生産性を上げるには、良い種、正しい生産方法に加え、良い土を作ることが大事。しかしそのために必要なトラクターなどの農機は高価で、そう簡単に買えません。そこで、カンボジアで貧しい農家でも利用できる農機レンタルを始めたリネットジャパングループと共に活動しています。

今後は首都プノンペンのスーパーなどの販売先を探し、農業資材から生産、販売までのバリューチェーンづくりに貢献したいと考えています。



スジャイ・サントラさん

PROFILE

所属：アイキュア・テックソフト社
活動国：インド
共に活動する日本企業：ARUN合同会社

ITで医療サービスを 地方の人々へ



インドでは地方に住む約8億人のうち、人材や施設の不足のため、公的な保健医療サービスを受けられているのは30%だけです。もっと多くの人々がアクセスできるようにと起業し、患者のカルテを病院と共有し、遠隔でも治療のプロセスを監視できる独自のソフトウェアを開発しました。まずは西ベンガル地方に、貧困層でも払える費用で基礎的な保健医療サービスが受けられる28のヘルスセンターを設置。さらに高度な治療が必要となった場合は、



IT技術で大病院とカルテを共有することで地域特有の症例などの知見が積み重なる

自社のシステムを通じて大きな病院にカルテを共有し、紹介する仕組みです。今年5月までで新たに約2万人が保健医療サービスを受けられるようになり、今後はオリッサやアッサムなどの地方にも広めていきたいと考えています。

こうした活動をサポートしてくれるのが、ARUNの社会的投資です。投資家と私たちのようなベンチャー企業を結び付けてくれるおかげで、貧困層の人々の生活を改善するインパクトを生み出せるのです。

特集
貧しさからの脱却

私たち、こんなことに取り組んでいます！

～日本企業のパートナーたち～

ビジネスの強みを生かし、開発途上国の貧困削減に取り組む日本企業も増えている。その取り組みについて、共に活動する現地のパートナーの声をきいてみよう！



クリスピン・スクワさん

PROFILE

所属：クリン・ディベロップメント社
活動国：タンザニア
共に活動する日本企業：株式会社オーガニック・ソリューションズ・ジャパン

農家と共に成長する 干しイモ産業を目指す



タンザニアには、社会格差や農業生産性の低さなど、貧困につながる課題がたくさんあります。それを解決し、この国の発展に貢献できるビジネスを立ち上げようと、20年来の友人であるオーガニック・ソリューションズ・ジャパン営業部長の長谷川竜生さんと試行錯誤を続けてきました。

そしてとり着いたのが干しイモ。この国はサツマイモ栽培が盛んで、それを原料にした干しイモは、国内市場ではビタミンAが豊富なおやつとして、海外市場では自然派



ダルエスサラームの見本市で干しイモの試作品をアピール

食品としてビジネスのポテンシャルが高いと考えています。契約農家には無農薬のサツマイモ栽培を指導し、干しイモを製造する会社も設立しました。工場立ち上げに当たり、私は日本で研修を受け、食品加工の技術や品質管理、工場運営、サツマイモの栽培方法などを学びました。農家と共に成長しながら、タンザニアの食品加工産業の頂点に立ち、業界をけん引するような会社に育てたいです。



ケルトウマ・アシャフアさん

PROFILE

所属：ソパール・アイトバームラン経済利益グループ
活動国：モロッコ
共に活動する日本企業：株式会社ジェイ・シー・ピー・ジャパン

サボテンが可能性を 秘めた“売れる”商品に



大きな産業がなく、いまだ貧しい人々も多いモロッコの南部、シディイフニ地域。しかし、国内でも有数のウチワサボテンの産地です。サボテンの種子を使ったオイルは、抜群の保水力があると有名。しかも、1リットルのオイルを取るためにサボテン果実が800キログラムも必要という幻のオイルですから、希少価値の高い商品になります。

私はサボテンを使った商品を扱う会社を起業し、女性の雇用促進に取り組んできました。そして、地元のサボテン農



シディイフニ地域にある4万ヘクタールものサボテン農地で収穫する女性たち

業組合の代表として、ジェイ・シー・ピー・ジャパンと共にビジネスに取り組むことに。生物学を学び、サボテン商品の開発にも取り組んできましたが、商品のマーケティングはまだ未熟。その点、ジェイ・シー・ピー・ジャパンは日本でモロッコの自然美容商品を10年以上販売してきた経験があります。共に商品開発をし、品質を高め、マーケティングをすることで、この地域がサボテンで有名になって発展できると期待しています。